

見直しの方向性（案） ②新たに組み組むべき目標

高齢者への医療・介護の効果的・効率的な提供

- 医療・介護の複合的なニーズを有する高齢者の増加が今後見込まれる中で、きめ細かな連携を通じ、効果的・効率的に地域を支えていくことができるような取組をすべきという指摘や、都道府県・市町村が連携を強め、高齢者保健事業や介護予防を一体的に取り組むことが重要との指摘があった。
- ⇒ 新たな目標として、医療・介護の両方にまたがるアプローチの重要性を関係者が認識し、医療・介護の効果的・効率的な提供の重要性を踏まえた取組を推進することを位置づける。

見直しのポイント（案）

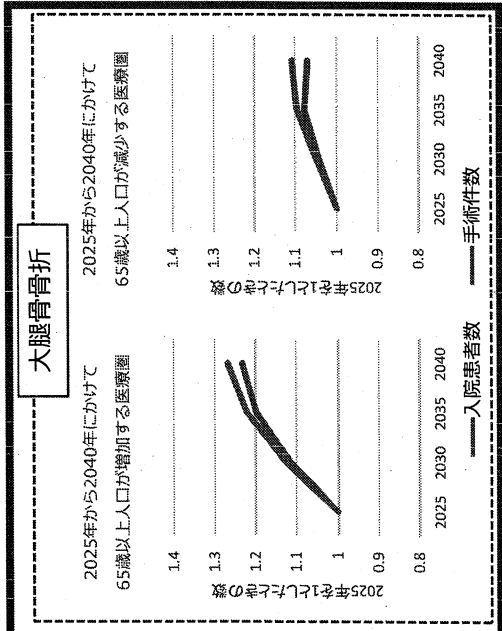
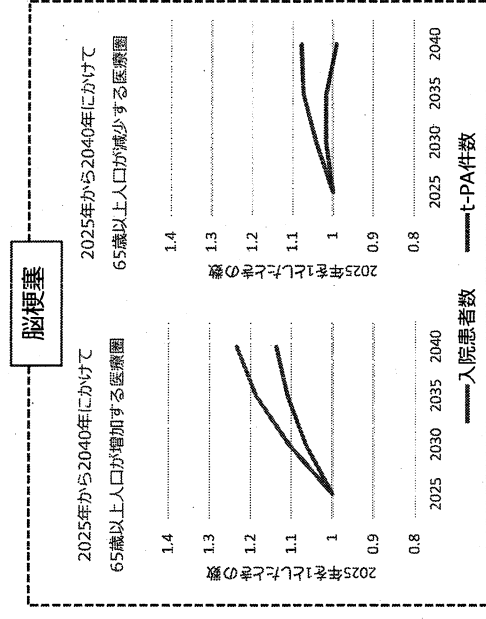
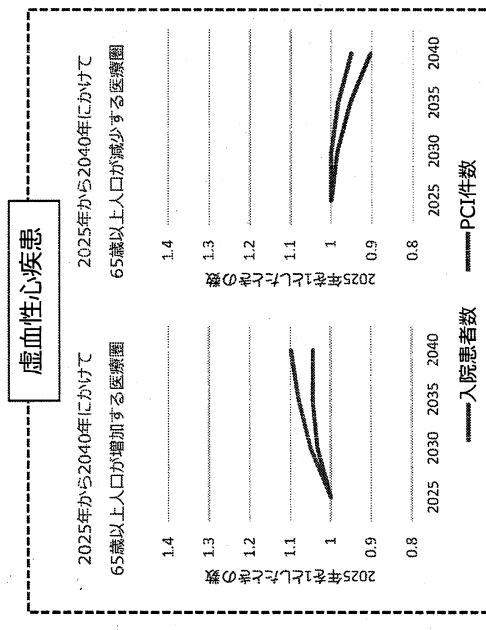
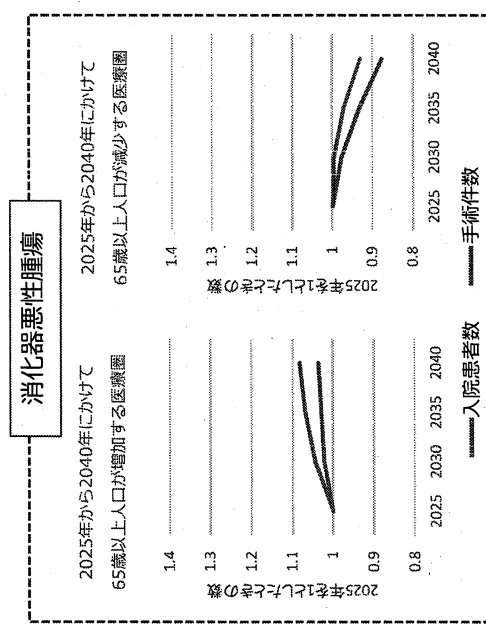
- 1 高齢者への医療・介護の効果的・効率的な提供
 - ・ 医療と介護の複合的なニーズを有する高齢者の増加が今後見込まれる中で、医療と介護にまたがるアプローチの重要性を関係者が認識し、限られた医療・介護資源を効果的・効率的に組み合わせることで医療費適正化を推進するための新たな目標として、以下を位置づける。
 - 医療・介護の機能連携を通じた効果的・効率的なサービス提供の推進
 - 高齢期における疾病は、当該疾病の治療ニーズや引き続いて発生する介護ニーズにつながるかと考えられる。例えば、高齢者の骨折については、今後の高齢化の進展に伴い入院患者数・手術件数の増加が見込まれており、二次骨折の発生等により医療ニーズのみでなく介護ニーズも増加すると考えられることから、急性期から回復期、在宅での介護や通院時の医療・介護の機能連携や適切な受診勧奨等を推進する。
 - 高齢者の心身機能の低下に起因した疾病予防・介護予防
 - 高齢期における疾病予防と介護予防が相互に影響し合うことを踏まえ、高齢者に対する保健事業・介護予防事業を一体的に実施し、効果的に取り組むことができるように位置づける。

2-① 高齢者への医療・介護の効果的・効率的な提供：超高齢化・人口急減による急性期の医療ニーズの変化

令和4年3月4日
第7回 第8次医療計画等に
関する検討会

資料1
(一部改変)

- 2025年から2040年にかけて65歳以上人口が増加する2次医療圏(135の医療圏)では、急性期の医療需要が引き続き増加することが見込まれるが、がん・虚血性心疾患・脳梗塞については、入院患者数の増加ほどは急性期の治療の件数は増加しないことが見込まれる。また、大腿骨骨折の入院患者数・手術件数は大幅な増加が見込まれる。
- 2025年から2040年にかけて65歳以上人口が減少する2次医療圏(194の医療圏)では、がん・虚血性心疾患の入院患者数の減少が見込まれる。脳梗塞については、入院患者数の増加ほどは急性期の治療の件数は増加しないことが見込まれる。また、大腿骨骨折の入院患者数・手術件数は増加が見込まれる。



出典：レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) (2019年度分、医政局において集計患者調査 (平成29年)「入院受療率 (人口10万対)、性・年齢階級×傷病分類別」
国立社会保険・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (平成30 (2018) 年推計)」
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数 (令和2年1月1日現在)」

※ 入院患者数は、各疾患の都道府県ごとの入院受療率にこの将来の人口推計を掛け合わせて算出。
※ 手術件数・PCI件数・t-PA件数は、NDBの集計 (下記定義による) による実績値から、令和2年1月1日時点での住民人口を用いて都道府県ごとの受療率を算出し、二次医療圏ごとの将来の人口推計を掛け合わせて算出。
※ 消化器悪性腫瘍の手術件数とは、消化管及び肝胆膵等にかかる悪性腫瘍手術の算定回数合計である。
※ 虚血性心疾患のPCI件数とは、「経皮的冠動脈形成術」「経皮的冠動脈ステント留置術」等の算定回数合計である。
※ 脳梗塞のt-PA (アルテプラゼ)による血栓溶解療法 (股)の算定回数合計である。
※ 大腿骨骨折の手術件数とは、「人工骨頭挿入術 (股)」の算定回数合計である。
※ 福島県は市区町村ごとの人口推計が行われていないため、福島県の二次医療圏を除く329の二次医療圏について推計。